



あいのその 2025 年 10 月号



「しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。

わたしの主なる神は、わが力。わたしの足を雌鹿のようにし／聖なる高台を歩ませられる。」

(ハバクク書 3 章 18～19 節)

愛の園保育園 042-325-1045

預言者ハバククは、苦難の中にあったユダヤにおいて嘆きの言葉を語り、それに対する神の答えを聴きました。彼が生きたのはイスラエルが困難を極めた時代です。暴虐が満ち、不正が横行し、人の心も荒れずさんでいく状況にあって神はなぜ沈黙しているのか、そんなふうに感ぜざるを得ない中で、それでもハバククは熱心に神に助けを叫び続けます。するとそこに神の救いの幻が与えられました。それは噛み砕いていえば、たとえば白昼夢のようなものだったかもしれません。つまり、あくまでもそれは幻であって、それを見たからといってその瞬間から世の中が激変したわけではないのです。しかしハバククは、目の前の現実が困難や苦しみを伴うものだったとしても、だからといって神がいけないわけではないのだということに気づかされます。それは、イスラエル全体の歩みや自らの人生を振り返ってみたとき、自分から見て良いと思えたことはもちろん、悪いことに思えたようなこともすべて、それは神が人間の最善のために取り計らってくださっていたのだ、ということに気づかされたからです。神は生きている者と常に共にいて、たとえそのときは苦しみの意味がわからなかったとしてもわかる時が必ず来るのだ、ということが、その苦しみを乗り越えたり、あとから振り返ってみたときにより大きな力や慰めを与えてくれたりしたのでしょうか。苦しみがあるから神などいないということではない。悪が蔓延っているから神に見捨てられているということではない。まだ目に見えていないことこそを希望とすることが、本当の希望である、ということ力を強くハバククは語ったのです。その感謝の思いが、ここでの「踊る」という思いに表れているのです。聖書の中には踊りの歌や踊る人というのが多く登場しますが、それらはすべて、今を生かされていること、生かされてきたことへの神への感謝を表す、喜びの姿です。

そのときはわからなくても、あとになって気づかされるということは私たちもまた経験することなのではないでしょうか。目に見える、肌に感じる、耳に聞こえてくる現実には傷つき、失望し、倒れそうになったとしても、踊り出すまではいかないとしても希望の心を持ち続けていくことの大切さを思わされます。

(牧師 西脇 正之)



<いきたいところへじぶんでいける>

少しずつ秋の兆しを感じられるようになり、外遊びに出掛けるようになってきました。4人乗りのバギーに乗り込み、保育園の近くの散策にいざ出発！目的地となることが多い学芸大学のウッドデッキではそばに停まった宅配車やゴミ収集車を狙って歩き出す子や、ハイハイや大人と手をつないで一歩ずつ歩みを進める子などそれぞれの発達に合わせて過ごしています。そしてそのような散策や遊びを通して、子ども達は自分の体の使い方を学んでいきます。抱っこされることも大好きですが、自分の力で思ったところまで行くことができるようになることの喜びが一人ひとりの表情から伝わってきます。



食事の時間にも子ども達の「じぶんで！」の気持ちを強く感じます。つまみ食べや食べたいものへの指差しが盛んになってきており、スプーンを上手に操作して食べることもつながってきています。

これからも子ども達が遊びや生活の中から自分で育っていくことをおうちの方々と情報交換をしながら支えていきたいと考えています。

たんぽぽぐみ



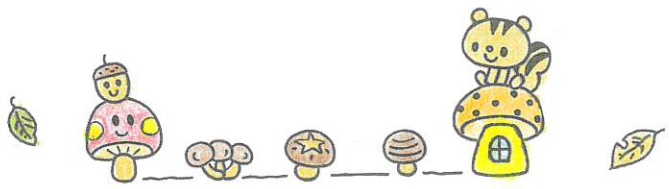
〈やっと、秋が来た？〉

今年の夏も厳しい暑さが続きましたね。連日、暑さ指数が基準値を超え、お散歩に出られない日が多くありました。その間は「みんなの部屋」やホールを活用し、室内でも元気に楽しく過ごしてきましたが、やはり子どもたちの本音は「外で思いきり体を動かしたい！」という気持ちだったようです。

9月に入り、クラスではさっそく学芸大学のウッドデッキや保健センターへ出かけ、外遊びを再開しています。外に出ると、子どもたちは道ばたや草むらで大好きな虫探しに夢中！ 特に小さなアリを見つけると「ちっちゃいね」と指をさしたり、じっとしゃがみこんで動きを追いかけたりしています。手のひらを差し出してアリが登ってくるのを待つ姿も見られ、子どもらしい探究心があふれています。見つけると私たちやお友だちに「アリ！」と教えて一緒にのぞき込み、「あっ！」と声をそろえて喜ぶ子どもたちの姿も微笑ましいひとときです。小さな発見を分かち合いながら、友だちと一緒に笑い合う中で、子どもたちの世界はぐんと広がっているように感じます。

まだまだ夏なのか？と思うぐらい暑い日もありますが、これからは青空の下で体をたくさん動かすことはもちろん、小さな自然との出会いを楽しみながら、子どもたちがのびのびと元気に遊べる時間を大切にしていきたいと思います！（記 ）

ちゅういっぴぐみ



季節の変わり目は体調を崩しやすい時期です。衣服の調節等こまめにしていき体調管理にも気を配っていきたいと思います。

〈酷暑の夏を乗り越えて〉

酷暑の長い夏、送り迎えはさぞ大変だったことと思います。戸外に出られない日もありましたが、室内で指先遊び、感触遊び(水・氷・寒天他)、リズム遊び(盆踊り)など夏ならではの遊びをたくさん楽しみました。色々な事を経験した最近のちゅういっぴぐみさんは、大人に言われなくても自分で考え動く力が育ち、言葉もどんどん豊かになってきています。お友だち同士や大人とのやりとりを楽しんだり、大人が驚くような言葉を口にする姿もあり、日々の生活の中で身につけた力が行動や言葉に現れるようになってきたことを感じます。一人一人の成長が本当に嬉しいです。

これから過ごしやすい季節になります。秋の自然に触れながらのお散歩も楽しんだり、木の実や枝、葉っぱなどを使った遊びも取り入れたり、少し足をのばして広ーい場所で沢山身体を動かし健康な体作りにもつながる活動を大切にしていきたいと思います。

(記：)



にじぐみ



先日の運動会では子ども達への温かい応援、ご協力をいただきありがとうございました。お友達やご家族の応援を力に、一人一人が一生懸命に取り組む姿が見られました。クラスや学年としても、みんなで一つの行事をやり遂げた喜びを分かち合いながら、これからも日々の生活を大切に過ごしていきたいと思っています。

【当番活動】

先月から星さん月さんが取り組んでいた当番活動に花さんが加わりました。ずっと楽しみにしていたようで、夕の会をお願いをすると喜んでくれます。当番さんは登園後、仕度が終わると台布巾絞りに取り組みます。

花さんにとって台布巾を絞ることは、自分の手よりも大きいので一苦労…。そんな時、「できる？」「こうだよ。」と助けてくれるのは星さん月さんです。“やり方を伝える”という事は簡単ではありませんが、手本を見せつつ、言葉を添えて丁寧に伝えようとする姿はお互いにとって良い刺激になっています。花さんが自分で絞った後の最後の仕上げは月さんが担当。しっかりと力を込めて絞る姿がとても頼もしいです。3人で協力してテーブル拭きやこぼし皿・お茶・口拭きナフキンのセッティングをしてくれます。当番活動を通して「ありがとう」と感謝を伝え合うことも増え、嬉しい気持ちがやりがいに繋がっているようです。

当番活動を始め、日常の中でも子ども達の力でできることを探しながら取り組み、成長を支えていけたらと思います。

記

10月食事だより



朝、晩はだいぶ涼しくなりましたが、まだまだ暑い日が続いています。
早く、涼しい秋風を感じ、気持ちよく散歩に行ける日が増えるといいですね。

子どもたちが、散歩の際に調理室の前を通らなくなり、
元気な声が聞こえないのは寂しいですが、調理室では玄関の扉越しに
「いってらっしゃーい」と見送っています。

10月から幼児クラスで

「お米の計量～研ぎ」と「食事の配膳」が始まりました。

「お米の計量～研ぎ」

昨年行っていた月さん、星さんに加え、花さんもデビューします。

自分たちがどのくらいのお米を食べているのか、
計量している時のお米と、研ぎ始めてからのお米の様子の違いなど、
他にもたくさん、子どもたちは小さな気づきをしているのでは…と期待しています。

「食事の配膳」

数年ぶりに子どもたちが自分で食事の配膳を行います。

出来ることは自分で行う、自分の食べられる量を知る。

お友達のことを思いやる…子どもたちには様々な学びや気づきがありそうです。

これからの要となる「生活力」に繋がってくれればと思います。

<お弁当について>

気候が良くお弁当持って出かける機会が増える季節です。

また、10月は花さんの初めての遠足、

月さんのお別れ遠足があります。

- ▷ご飯やおかずは冷やしてから詰めましょう。
- ▷水分は大敵です、生野菜、果物はよく洗い、水気を切ってから詰めましょう。
- ▷おかず(ハンバーグ、卵焼きなど)はすべてしっかり火を通しましょう。
- ▷ミニトマト、ぶどう、うずらの卵などの丸いものは、半分などに切り、食べやすくのどにつまらないようにしてあげてください。
- ▷子どもの好きなおかず、食べ慣れたおかずで無理なく食べられる量のお弁当にしましょう。
- ▷ピックなど使い慣れていないものはけがの原因になります、ご配慮をお願いします。



《お弁当は子どもたちにとって遠足の楽しみの一つです、楽しく安全なお弁当のご協力をお願いします》



ほけんだより



2025年 10月



日中はまだ暑い日が続きますが、朝夕が涼しくなって来ました。日中との気温差も激しく、体調を崩しやすい時期ですので、健康管理には十分注意しましょう。

また、この季節の移り変わりを上手く利用して薄着の習慣をつけていきましょう。



衣類の調節と健康

衣類は、からだを保護し保温します。子どもにとっては、気温・体調・活動に合わせて衣類を調節することは大切なことです。健康に過ごせるよう気を配っていきましょう。



《 子どもの特性から大切なこと 》

1 おとなより薄着が快適です。

- * 子どもは新陳代謝が激しく、運動量も多いため、熱を放散させる必要があります。
- * 子どもは、体重あたりのエネルギー消費量が、おとなの2~3倍多く、体温も高めです。

→ 子どもが健康で過ごすためには、薄着で心配ありません。

2 子ども時代に、暑さ寒さを体感するのは大切なことです。

- * 乳児期は体温調節の機能が未熟ですが、10~15歳頃体温調節中枢の機能が完成します。
 - * 暑さ寒さの経験によって、自律神経系が順調に機能していくようになり、適応力も育っていきます。
- いつも快適な環境におかれると、体温調節をする必要がないので、気温の変化についていけなくなってしまうです。健康な育ちを妨げないよう、衣類の調節にも気を配っていきましょう。



子どもの衣類のポイント

- * 伸縮性がある、またはゆとりが適度にあるものがよいです。
(自分で脱ぎ着がしやすく、からだ十分に動かせます)
 - * シンプルなものが安全です。
(フード・長い紐・大きなボタン・飾りは思わぬ事故につながります)
 - * 季節に応じて、重ね着など調整しやすいものがよいです。
(厚手1枚より、薄手の重ね着が、動きやすく暖かいです)
 - * 下着は綿素材で、ランニングまたは半袖がよいです。
(ヒートテックや長袖の下着は、子どもにとって暑かったり、動きにくい代り代謝が悪くなることもあります。また合成繊維は、静電気によって皮膚を傷めるので望ましくありません)
- 《 衣類のチェックをもう1度してみましょう。
衣類が小さくなっていませんか? 》



あと10分

はい

子どもにスマホが与える影響

- * 幼児期は、実生活を通して身体機能や言語能力を著しく発達させます。
(一人で動画を見ているだけでは、誰かと会話をすることもないので語彙力やコミュニケーション力が育ちににくいです。)

「言葉が出ない」「人の話が聞けない」という子どもに、長時間モバイル端末を使っている子が多いようです。

手洗いが守る健康と命

手洗いたと言っても、指先を軽く濡らすだけ、水でパツパツと洗うだけでは、感染症の予防には不十分です。

石鹸を使って正しく手を洗うことは、自分で取り組むことが出来、感染症の予防に有効です。

手洗いは、一番身近なワクチン!

石鹸を使った正しい手洗いは、子ども達の命を奪う病気のうち、下痢と呼吸器感染症の予防に大きな効果があります。食事の前、トイレの後、帰宅後などに、正しく手を洗えれば、こうした病気から命を守ることが出来ます。

また体調不良で休むことも減って来ます。



《 正しい手洗い 》

正しい手洗いは、石鹸を使い、手のひら、手の甲、指の間、爪、親指の周り、手首の6ヶ所を20秒かけて洗い、水で泡を流し、きれいなタオルなどで拭きます。

親指の周り、手首、指の間、しわやくぼみの部分は洗い残しがちなので要注意!



子どもの視力の発達

視力は生後6週間からぐんぐん発達し、5歳で1.0以上になります。乳幼児期に、目に正確な視野情報が行き届かないと、目の発達が妨げられ視力が低いまま大人になってしまいます。斜視があったり、遠視が放置されたり、眼帯を付けたりすると弱視が誘発されます。5歳頃までに発見し治療すると回復の見込みがあると言われています。おかしいと思ったら、早めに眼科を受診しましょう。



- * 10月後半に2歳児クラスの手洗い指導 幼児クラスの視力検査を行います。

- * 秋の歯科健診日が医師の都合により 11/20 → 11/13 に変更になりました。

9月の感染症

ウイルス性胃腸炎		1名
ヘルパンギーナ		2名
溶連菌感染症		1名



文責